

# 中国における障害者の地域分布の特徴

真 殿 仁 美

## はじめに

中国には8,296万人の障害者が暮らしている。これら多くの障害者は、あの広い国土にどのように分かれ広がり暮らしているのだろうか。本稿は、中国障害者の地域分布、およびその分布に見られる特徴について明らかにすることをねらいとしている。本論でも取りあげるが、中国は近年、急激な勢いで高齢化が進んでいる。中国の高齢化の特徴<sup>(1)</sup>は、進度や前例のない規模、また、独居高齢者や高齢の夫婦のみの世帯を指す“空巢家庭”の増加などいくつか挙げられている。その特徴の一つに、高齢者地域分布のアンバランスというのがある。これは、中国の高齢化が、東から西へ向かって延びていることを指している<sup>(2)</sup>。高齢化は障害者の数にも影響していることから、障害者の地域分布にも、このような特徴が見られるのだろうか。

本稿では、2006年に行なわれた「第2回全国障害者サンプリング調査」の結果を用いて、障害者の地域分布を検証する。ここで取りあげるのは、普通行政区の第一段階にあたる省、自治区、直轄市の障害者分布について

---

(1) 包は、他国と比較して、中国の人口高齢化の特徴を次の7つにまとめている。①老年人口の規模が大きく、高齢化のスピードが速い ②地域格差が大きい ③人口高齢化と経済発展のアンバランス ④家族扶養機能の低下 ⑤高齢化を迎える準備が不十分である ⑥女性高齢者の負担が大きい ⑦人口高齢化に関する最大の挑戦的課題は高齢化のスピード。沈潔編著（2007）14-17頁。

(2) 沈潔（2008）83-89頁。

である。それぞれの省や自治区、直轄市における人口に占める障害者の比率をもとに、その変動や格差を考察することで、中国障害者の地域分布の特徴を明らかにしたい。

## I. 障害の定義と障害者の人口比率

本題に入る前に、まずは中国の障害定義について触れておこう。

現在、中国には8,000万人以上の障害者がいる。これらの障害者はどのような障害定義に基づいて障害を判別されたのだろうか。

### (1) 中国の障害定義

中国で用いられている障害および障害者の定義とはどのようなものか。

中国はこれまで、1986年に国務院から出された「障害基準」(以下、「1986年障害基準」と記す)や1990年に制定された「中華人民共和国障害者保障法」(以下、「障害者保障法」と記す)第2条において障害や障害者の定義を明確に示してきた。「1986年障害基準」では、5種類の障害に分類し、それぞれの障害について定義が示された。一方、「障害者保障法」の第2条では、障害者についての定義が盛り込まれた。条項では、障害者とは心理、生理、人体構造、ある種の組織や機能が喪失あるいは正常でなく、ある種の活動に従事する能力がすべてまたは部分的に失われた状態にある人を指す、と定めている。また、障害者には視覚障害、聴覚障害、言語障害、肢体障害、知的障害、精神障害、重複障害、その他の障害者を挙げている。障害の規定については、国務院が定めた「障害基準」に準じるとしている。

2006年に行なわれた第2回目の障害者サンプリング調査では、新たに出された「第2回全国障害者サンプリング調査障害基準」(2005年；以下、「2005年障害基準」と記す)が用いられた。この基準と1986年に出された「障害基準」は、障害の種類および表記、また障害の定義に違いが見られる(表I-1)。

表 I-1 「障害基準」の比較

	「1987年調査」で用いた基準	「2006年調査」で用いた基準
障害の種類	5種類	6種類
	①視覚 ②聴覚言語 ③肢体 ④知的 ⑤精神病 重複	①視覚 ②聴覚 ③言語 ④肢体 ⑤知的 ⑥精神 重複
障害を定義する際の観点	身体構造や機能の喪失	身体構造や機能の喪失および活動や参加に影響や制限を受ける

出典：中国残疾人联合会編（1996）、298-301頁、「第二次全国残疾人抽样调查残疾标准」を参考に作成。

「2005年障害基準」では、まず、障害の種類が5種類から6種類に変更されている。これは、従来の聴覚言語障害を聴覚障害と言語障害の二つに分けたことから、障害種が増えることとなった。次に、障害の表記について。「1986年障害基準」では、中国語で精神病残疾、という表記が使われていたが、「2005年障害基準」では、これを精神残疾に改めている。重複障害についても、総合残疾から多重残疾という表記に変更している。最後に、障害を定義する観点について。これまでの障害の定義は、身体機能の喪失に重点が置かれていた。新しい「2005年障害基準」では、活動や参加に制限を受ける、という視点も加えて障害を定義している。そのため、6種類の障害定義には、機能の喪失に加えて、日常生活や社会参加、コミュニケーション活動に影響や制限を受けることが併せて盛り込まれている。「2005年障害基準」において、障害を定義する際の観点が変化したことから、肢体障害の軽度にあたる4級の対象枠に拡大が見られた。この障害を定義する観点の変更を受けて、障害の対象が広がったことが、中国の障害者の数の増加につながったという指摘がある。

次からは、中国でこれまでに行なわれた2回の全国障害者サンプリング調査をもとに、障害者数や障害者率の変動について詳しく見ていく。

## (2) 障害者数の変化と総人口に占める障害者の比率

中国では、1987年に初めて全国規模での障害者サンプリング調査が行なわれた（以下、「1987年調査」）。この調査から、当時、中国には障害者は5,164万人いることが明らかになった。この障害者数は、当時の中国の総人口の4.9%を占めていた。一方、その後19年を経て2006年に実施された第2回目の全国障害者サンプリング調査（以下、「2006年調査」）では、障害者の数は8,296万人、総人口に占める割合は、6.34%であった。これら調査結果を比較してみると、障害者の総数は3,000万人以上増えていることが分かる。中国はこれまで、障害者の増加について年間70-80万人と予測してきた<sup>(3)</sup>。しかし、この結果から、予測を大幅に上回って障害者が増えていることが明らかになっている。また、総人口に占める障害者の比率も「1987年調査」と比べると1.5ポイント近く増加している。

ここで、この障害者の比率について、WHOの推計とOECDの調査について触れておく。WHOは、世界の総人口の10%が障害者であると推計している。また、各国の障害出現率についても、障害の定義が各国において異なるため、厳密な比較はできないとしながらも、人口の10%を占めると推測している<sup>(4)</sup>。さらに、OECDが行なった調査と比較してみると、調査対象の20カ国の平均障害率は14%であるという<sup>(5)</sup>。これは、OECDが加盟国を対象に20-64歳の稼働年齢に占める障害者の割合を調査したものである。中国の総人口に占める障害比率とは算出方法が異なるため、一概に比較することはできない。しかし、中国の障害者率とこれらWHOの推計した数値やOECDの示す平均障害者率と比べてみると、中国の障害者率は大きな開きがあるといえる。実際に、中国もサンプリング調査の主要なデータを公開した際に、自国の6.34%という障害比率を国際的にみて低いと認めている<sup>(6)</sup>。

---

(3) 陸徳陽・稲森信昭（1996）444頁。

(4) 工藤正（2004）10-18頁。

(5) OECD編著／岡部史信訳（2004）25頁。

## II. 障害種別にみる障害者数の変化

障害者総数および、中国の総人口に占める障害者の比率が明らかになったところで、以下からは、それぞれの障害種別に障害者を捉え、障害者の構成を把握する。障害者総数が3,000万人以上増えていることは先にも述べた通りである。障害者数の増加は、6種類の障害人数にどのように反映しているのだろうか。

表Ⅱ-1から分かるように、「2006年調査」では、6種類の障害のうち肢体障害が最も多く、障害者全体の3割近くを占めている。また、「1987年調査」の人数と比べてみると、肢体障害者は約1,600万人増えている。増加した障害者3,000万人の約半数を肢体障害が占めていることが分かる。精神障害も肢体障害と同様に、前回の調査から3倍以上人数が増えている。

表Ⅱ-1 障害者数の比較

単位：万人，（％）

	1987年	2006年
総数	5,164 (4.9)	8,296 (6.34)
視覚障害	1,770 (34.3)	1,233 (14.86)
聴覚障害	1,017 (19.7)	2,004 (24.16)
言語障害		127 (1.53)
肢体障害	755 (14.6)	2,412 (29.07)
知的障害	755 (14.6)	554 (6.68)
精神障害	194 (3.7)	614 (7.40)
重複障害	673 (13.0)	1,352 (16.30)

出典：中国残疾人联合会編（1996），696，704頁，「第二次全国残疾人抽样调查主要数据公报及问答」  
[http://temp07.cdpj.cn/gzh/2007-01/25/content\\_7647.htm](http://temp07.cdpj.cn/gzh/2007-01/25/content_7647.htm), visited 2007/02/22.

(6) 自国の障害者率を比較的低いと認めたうえで、この比率は、中国の経済と社会の発展状況に相応しているとも述べている。第二次全国残疾人抽样调查办公室（2007a）33頁。

サンプリング調査指導グループや国家統計局は、肢体障害の大幅な増加要因の一つとして、障害定義の見直しを指摘している。これは、先にも述べたように、「2005年障害基準」において障害定義の見直しがなされたことから、肢体障害の軽度にあたる4級の対象が拡大したことを指している。肢体障害者増加のその他の要因としては、中国社会の高齢化との関係が指摘されている<sup>(7)</sup>。中国では近年、急激な人口の高齢化が進んでいる。1999年に中国は高齢化社会<sup>(8)</sup>へ突入した後、猛烈な勢いで高齢社会へ移行しようとしている。中国では、65歳以上の人口比率が高齢化社会の到達といわれる7%から、高齢社会（14-21%）へと移行するのに27年かかる、という予測が出されている。この予測通りだとすると、中国の高齢化の速度は、日本に匹敵する速さになる<sup>(9)</sup>。中国は、2007年末時点で60歳以上の高齢者が1.53億人に達している。この人数は、中国総人口の11.6%を占めている<sup>(10)</sup>。

一方、高齢の障害者はどの程度いるのだろうか。「1987年調査」では、60歳以上の高齢障害者は、障害者全体の39.72%であった。「2006年調査」では、60歳以上の高齢障害者は、4,416万人いることが明らかになっている。この人数は、障害者総数8,296万人の半数以上の53.24%を占めている。次に、肢体障害のみを取りあげてみると、2,412万人の肢体障害者のうち、半数近くの44.7%が60歳以上の高齢障害者である。つまり、高齢障害者4,416万人の約20%を肢体障害者が占めていることになる。ではなぜ、これほどまでに高齢の肢体障害者が多いのか。肢体障害の要因を分析してみると、肢体障害者全体の4割近い人が、骨関節の疾病や脳血管性の疾患により、肢体障害に至っていることが分かる。これらはいずれも、高齢にな

---

(7) 第二次全国残疾人抽样调查办公室（2007a）36頁。

(8) 全国老龄工作委员会「全国老龄办常务副主任李本公在全国养老服务社会化经验交流会议上的讲话」。

(9) 日本の高齢化の速度は先進国の中でも最も急速で、1970年の7%から、わずか24年で14%へと到達した。沈潔編著（2007）15頁。

(10) 上海市老龄科学研究中心「2007年中国主要人口数据」。

り発症する例が多いという。社会における高齢者の増加が、肢体障害の増加につながっていることから、今後、高齢と障害問題を複合的に検討していくことが必要になるだろう。

次に、6種類の障害の中で人数に減少が見られたのは、視覚障害と知的障害である。「1987年調査」では、視覚障害は障害者数の3割以上を占め最も多かった。それが、「2006年調査」では視覚障害者は500万人減少し、障害者全体に占める割合も15%を下回っている。知的障害は「1987年調査」から200万人減少し、障害者比率も言語障害に次ぐ低さに変化している。この知的障害者の大幅減の要因について、中国政府はこれまで取り組んできた栄養やヨード不足、また水質の改善などの成果が表れた、と手放しで喜んでいる<sup>(11)</sup>。さらに、健康に関する教育を通じて、優生優育や計画免疫などの知識が普及したことも知的障害の減少につながったと説明している。

これらのことから、中国の障害者の構造が大きく変化していることがわかる。障害者の半数以上が高齢者であることや、肢体障害者や精神障害者が増えていることなど、これまでの中国の障害者には見られなかった変化が「2006年調査」に表れているといえる。障害者の構造変化は、障害者福祉政策にも影響を与えることになる。これまでの中国の障害者事業では、高齢障害者や精神障害者への取り組みが十分ではなかった。今後、障害者の事業展開を進めていく上で、これらの課題にどのように取り組んでいくのが焦点になるといえるだろう。

### Ⅲ. 障害者の地域分布

前節までにおいて、中国の障害者総数や障害種別の人数の変動について

---

(11) 実際に、「2006年調査」年12月1日に行なわれた公報会の席上、記者からの知的障害者の減少についての質問に対し、関係者は“高興”(中国語でうれしい、という意)という表現を用いて答えている。第二次全国残疾人抽样调查办公室(2007a)37頁。

述べてきた。その結果、従来とは異なる状況にあることを明らかにし、中国の障害者構造に変化が起こっていることを指摘した。

本節では、障害者の地域分布に着目し、全国の省、自治区、直轄市において、人口に占める障害者の割合がどの程度なのかを考察する。省や自治区、直轄市それぞれの障害者率を把握するのみならず、地域別に行政区を分け、地域間で見られる障害者率の格差についても言及する。また、障害者総数の増加に伴って、各地域の障害者分布にどのような変動が見られたのか、という点についても「1987年調査」との比較を通じて検証していく。

#### (1) 省、自治区、直轄市の障害者率から見る障害者の分布

先ずは、「2006年調査」の31の省、自治区、直轄市それぞれの障害者率から、障害者の地域分布を見ていこう。

全国31の省、自治区、直轄市の中で最も人口に占める障害者の割合が高かったのは、四川省である(表Ⅲ-1)。四川省の障害者率は7.57%と、中国の総人口に占める障害者比率6.34%を大きく上回っている。次に、7.23%の広西チワン族自治区、河北省、7.20%の甘粛省、河南省がつづく。調査の対象になった31の省、自治区、直轄市の中で、人口に占める障害者の比率が7%を超えているのは、7つの省、自治区である。これら7つの省、自治区は華東地域を除くすべての地域に分散している。西南地域に至っては、チベット自治区と四川省の2カ所で人口に占める障害者率が7%を超えている。

一方、31の省、自治区、直轄市の中で、人口に占める障害者の比率が最も低かったのは上海市である。続いて、遼寧省、新疆ウイグル自治区の5.31%、天津市の5.47%、といずれも5%台前半にとどまっている。全国で、人口に占める障害者の比率が5%台なのは、9の省や自治区、直轄市である。これらは、西南地域を除き他の5つの地域に分散して見られる。

障害者率を省、自治区、直轄市別にそれぞれ分けて見てみると、さらに興味深いことが分かる。22の省では、最も障害者率が高い四川省(7.57%)



中国における障害者の地域分布の特徴

表Ⅲ-1 各地域の人口に占める障害者の比率

単位：％

華北（5）			中南（6）		
北京市	4.5	6.49	河南省	5.7	7.20
天津市	4.2	5.47	湖北省	6.4	6.64
河北省	5.2	7.23	湖南省	4.8	6.44
山西省	4.4	6.04	広東省	3.95	5.86
内モンゴル自治区	4	6.39	広西チワン族自治区	5.5	7.23
			海南省	—	5.95
東北（3）			西北（5）		
遼寧省	4	5.31	陝西省	5	6.69
吉林省	5.7	7.03	甘肅省	5.1	7.20
黒龍江省	3.5	5.72	青海省	4.25	5.54
			寧夏省	3.4	6.83
			新疆ウイグル自治区	3.8	5.31
華東（7）			西南（5）		
上海市	4	5.29	重慶市	—	6.05
江蘇省	4.8	6.40	四川省	5.4	7.57
浙江省	4.7	6.36	貴州省	4.5	6.40
安徽省	4.6	5.85	雲南省	6.3	6.46
福建省	4.7	6.25	チベット自治区	7.2	7.00
江西省	4.5	6.39			
山東省	4.4	6.15			

注) 6つの地域区分については、第1回、第2回のサンプリング調査結果の区分に準じた。それぞれ地域名、「1987年調査」、「2006年調査」結果の順に記している。  
 出典：中国残疾人联合会編(1996年)704頁、第二次全国残疾人抽样调查办公室編(2007c)1311頁。

と最も低い遼寧省の（5.31％）との間に2.26ポイントの差が生じている。5つの自治区でも、5.31％から7.23％と5％台から7％台の障害者率が並んでいる。4つの直轄市のみが、唯一7％台の障害者率を有していない。これら省、自治区、直轄市別にそれぞれの障害者率の平均を計算してみると、直轄市の障害者率（5.82％）が最も低いことが分かる（表Ⅲ-2）。

表Ⅲ-2 障害者率の平均

省（22）	6.40％
自治区（5）	6.55％
直轄市（4）	5.82％

注）小数点以下第三位は繰り上げ。  
 出典：表Ⅲ-1から算出。

## （2）6つの地域別に見る障害者の分布

次に、かつて6大行政区と呼ばれていた華北、東北、華東、中南、西南、西北の6つの地域それぞれの人口に占める障害者の比率について取りあげ（<sup>12</sup>）。この6地域それぞれの分け方は、「1987年調査」、「2006年調査」結果を公表する際に用いられた区分を使用した。「2006年調査」結果では、中南地域に海南省が、西南地域に重慶市が加えられた。

これら6つの地域の中で、人口に占める障害者の比率が最も高かったのは、西南地域である（表Ⅲ-1）。西南地域に含まれる3省、1自治区、1直轄市のうち、4つが中国の総人口に占める障害者率6.34％よりも高い。そのうちの2つは7％を超えている。中南地域の障害者率も西南地域と同様に6％台後半の障害者率である。この中南地域では、5省1自治区のうち、2省が5％台、1省1自治区が7％台の障害者率であった。

6地域の中で障害者率が比較的低かった地域は、東北、華東地域である。

(12) この6大行政区は、建国初期において、省、自治区、直轄市の上に設けられた最高レベルの行政区画単位である。1952年に廃止されたが、今日でも地理的概念として用いられている。天兒慧他編（1999）682頁。

東北地域に含まれる3省をそれぞれ見てみると、大きな格差があることが分かる。東北地域の3つの省の中で2つの省の障害者率は5%台、残り1省が7%台である。この東北地域の、障害者率が最も高い吉林省と最も低い遼寧省とでは、1.62ポイントの差がある。地域の平均的な障害者率は低くとも、地域内の障害者率には格差があることがわかる。一方の華東地域の人口に占める障害者率は、6省1直轄市の中で、5省が6%台、残り1省1直轄市が5%台である。東北地域とは異なり、華東地域には7%台の障害者比率を出している省がない。地域内の障害者率格差も1.11ポイントと、6地域の中で最も地域内格差が少ない。

これらのことから、東北地域、華東地域ともに地域の平均障害者率は低い、地域内の障害者の分布は大きく異なっていることが読みとれる。

ちなみに、障害者率の地域内格差が最も大きいのは、西北地域の1.89ポイントであった。

### (3) 6地域それぞれの平均障害者率の変化

ここでは、6地域の障害者率の平均について、第1回目の調査との比較を通じて、各地域の障害者の比率にどのような変化が生じたのかを見ていく。

既に述べたように、「1987年調査」と「2006年調査」の総人口に占める障害者の割合は、それぞれ4.9%と6.34%である。「2006年調査」では、1.44ポイント増加している。6つの地域別に障害者率の平均値を見ても、「1987年調査」に比べていずれも増えている。中でも、中南地域、西北地域が前回の調査より2ポイント程度増加し、他の地域に比べて大きな増加率を示していることが分かる（表Ⅲ-3）。この西北地域の障害者率の平均は、前回の「1987年調査」では最も低く、4.31%であった。既に挙げた表Ⅲ-1からも分かるように、西北地域に含まれる5つの省と自治区の中でも、寧夏回族自治区は前回の3.4%から3.43ポイント上昇し、6.83%の障害者比率に達している。この寧夏の伸び率は、全国31の省、自治区、直轄

市の中でも最も大きい。寧夏回族自治区における障害者率の大幅な増加が、西北地域全体の障害者率を押し上げたと推測できる。

表Ⅲ-3 6地域の平均障害者比率の比較

単位：%

	「1987年調査」	「2006年調査」
華北	4.46	6.32
東北	4.4	6.02
華東	4.53	6.10
中南	4.39	6.55
西南	5.85	6.70
西北	4.31	6.31

出典：表Ⅲ-1から各地域別の平均値を算出。小数点以下第三位は繰り上げ。

一方、西南地域の障害者の比率は、「1987年調査」と比べて大幅な増加こそ見られなかったものの、前回の調査結果に続いて、6地域の中で最も高い障害者率であることが分かる。西南地域の3省1直轄市1自治区の中で、チベット自治区の障害者率は前回に比べて0.2ポイント減少している。障害者の比率が「1987年調査」と比べて減少したのは、全国でもチベット自治区のみである。

#### IV. 障害者の地域分布の特徴

中国の障害者の地域分布を、それぞれの人口に占める障害者率から考察を行なった結果、障害者の地域分布には、次の三つの特徴があると考えられる。

- ① 格差が激しいこと
- ② 直轄市の障害者率は比較的低いこと

③ 沿海側地域の障害者率は比較的低いこと

第一に、中国の障害分布の特徴の一つとして、それぞれの省や自治区、直轄市における障害者の比率の格差が顕著なことである。人口に占める障害者の比率が最も低かった上海市の5.29%と最も高かった四川省の7.57%では、2.28ポイントの差が生じている。また、31の省、自治区、直轄市の中で、7つの省、自治区において、人口に占める障害者の比率が7%台であり、9つの省、自治区、直轄市で5%台であった。このように、中国の障害者率は、各地域において5%台から7%台までの広い範囲で構成されていることが明らかである。

第二に、普通行政区の第一段階である省、自治区、直轄市の間で、障害者の比率に違いが見られることである。先にも指摘したように、省、自治区、直轄市のそれぞれの障害者率の平均を計算してみると、直轄市の障害者率が最も低く、5.82%であった。この数値は、中国の総人口に占める障害者率6.34%よりも低い。また、4つの直轄市には、7%台の障害者率は見られない。最も高くとも北京市の6.49%であった。

第三に、沿海側に位置する省や自治区、直轄市では、比較的障害者率が低いこと。中国の総人口に占める障害者率6.34%を基準に見てみると、渤海に面する遼寧省や河北省、山東省、天津市では、河北省を除いた2省1直轄市において、障害者率が総人口に占める比率よりも低い。また、東シナ海に面する江蘇省、上海市、浙江省、福建省、広東省においては、2省で若干6.34%を上回った程度で、残りの2省1直轄市では、いずれも総人口に占める障害者率を下回っている。また、障害者率が5%台にとどまっている9つの省、自治区、直轄市のうち、5つが沿海側にあることを見ても、沿海側の障害者分布は比較的低い水準であるといえる。

以上、障害者の地域分布の特徴について、これら三つの点を見出すことができた。本稿の冒頭において、高齢化の特徴の一つとして挙げた、地域分布が東から西へ向かって延びるという現象は、障害者の地域分布におい

ては見られなかった。

## おわりに

本稿では、人口に占める障害者率を用いて、中国障害者の地域分布を考察してきた。その結果、障害者の地域分布には三つの特徴が見られることを指摘することができた。しかし、本稿が取りあげた内容は、普通行政区の第一段階の省、自治区、直轄市のレベルにとどまっているため、限定的な地域分布であるといわざるを得ない。また、障害者の地域分布に見られる特徴については、それぞれの地域の地理的条件や環境、さらには経済水準などとの関係性に注意して、より詳細に分析していく必要があると考えられる。これらについては今後の課題として取り組んでいきたい。

## 参考文献

- 「第二次全国残疾人抽样调查残疾标准」  
第二次全国残疾人抽样调查办公室編（2007年）『第二次全国残疾人抽样调查主要数据手册』華夏出版社。（2007a）
- 第二次全国残疾人抽样调查办公室編（2007年）『第二次全国残疾人抽样调查资料（上）』中国統計出版社。（2007b）
- 第二次全国残疾人抽样调查办公室編（2007年）『第二次全国残疾人抽样调查资料（下）』中国統計出版社。（2007c）
- 「第二次全国残疾人抽样调查主要数据公报及问答」[http://temp07.cdpj.cn/gzh/2007-01/25/content\\_7647.htm](http://temp07.cdpj.cn/gzh/2007-01/25/content_7647.htm), visited 2007/02/22.
- 陸徳陽・稲森信昭（1996）『中国残疾人史』学林出版社。
- 全国老龄工作委员会「全国老龄办常务副主任李本公在全国养老服务社会化经验交流会议上的讲话」（06-07-25）[http://www.cnca.org.cn/include/content3.asp?thing\\_id=11336](http://www.cnca.org.cn/include/content3.asp?thing_id=11336), visited 2007/04/19.
- 上海市老龄科学研究中心「2007年中国主要人口数据」<http://www.shrca.org.cn/2895.html>, visited 2008/09/22.

## 中国における障害者の地域分布の特徴

中国障害者聯合会編（1996年）『中国残疾人事業年鑑 1949-1993』華夏出版社。

天兒慧他編（1999）『岩波現代中国事典』岩波書店。

OECD 編著 / 岡部史信訳（2004）『図表でみる世界の障害者政策』明石書店。

工藤正（2004）「先進国の障害者雇用の現状と日本の課題」『世界の労働』11月  
10-18頁。

沈潔編著（2007）『中華圏の高齢者福祉と介護』ミネルヴァ書房。

沈潔（2008）「中国高齢者福祉の現状と課題」『社会福祉研究』第102号 7月  
83-89頁。

Summary

## The area distribution features of persons with disabilities in China

Hitomi MADONO

There are 82.96 million persons with disabilities in China. How are they distributed in that country? The purpose of the present paper is to clarify that the feature in the area distribution of persons with disabilities in China.

Recently, aging is advanced by severe power in China. Aging in China has the following features. It advances from east to west. Can we see a similar feature to this as for area distribution of persons with disabilities?

The results show that there are three features in the persons with disabilities distribution of China. The feature seen in aging is not included in these.

**Key Words :** persons with disabilities of China, China National Sample on Disability, an area distribution,